

コンフィギュレーション ファイルのバックアップと復元方法について

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[コンフィギュレーションのバックアップの作成](#)

[TFTP サーバを使用したコンフィギュレーションのバックアップと復元](#)

[FTP サーバを使用したコンフィギュレーションのバックアップと復元](#)

[ターミナル エミュレーション プログラムを使用した構成のバックアップと復元](#)

[kron 方式を使用した設定の自動バックアップ](#)

[TFTP サーバへのコンフィギュレーションのバックアップ](#)

[確認](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、現在のルータから新しいルータに設定を移行する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があり、必要なアクセス権を持っていることが推奨されます。

- Trivial File Transfer Protocol (TFTP; トリビアル ファイル転送プロトコル) サーバまたは File Transfer Protocol (FTP; ファイル転送プロトコル) サーバへのアクセス権。
- 接続 : ルータは FTP または TFTP サーバにアクセスできる必要があります。接続の検証には ping コマンドを使用します。

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始していま

す。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細については、『シスコテクニカルティップスの表記法』を参照してください。

コンフィギュレーションのバックアップの作成

コンフィギュレーションをバックアップおよび復元するには、いくつかの方法があります。

- [TFTP サーバの使用](#)
- [FTP サーバを使用](#)
- [ターミナルエミュレーションプログラムの使用](#)
- [kron 方式を使用した設定の自動バックアップ](#)
- [TFTP サーバへのコンフィギュレーションのバックアップ](#)

TFTP サーバを使用したコンフィギュレーションのバックアップと復元

ルータから TFTP サーバにコンフィギュレーションをコピーし、さらに別のルータに復元するには、次の手順を段階的に実行します。この方法を進める前に、ネットワーク上に TFTP サーバが存在しており、そのサーバへの IP 接続が可能であることを確認します。

1. Router> プロンプトで enable コマンドを実行し、パスワードの入力を求められたら必要なパスワードを入力します。

プロンプトが Router# に変わったら、ルータが特権モードになっています。

2. この設定ファイルを TFTP サーバにコピーします。

```
<#root>
CE_2#
copy running-config tftp:
Address or name of remote host []?
10.104.207.171
Destination filename [ce_2-config]?
backup_cfg_for_my_router
!!
1030 bytes copied in 2.489 secs (395 bytes/sec)
CE_2#
```

3. テキスト エディタを使用してコンフィギュレーション ファイルを開きます。AAAで始まる行を検索して削除します。

 注：この手順では、ルータからユーザーをロックアウトする可能性があるすべてのセキュリティコマンドが削除されます。

4. コンフィギュレーション ファイルを、TFTP サーバから、特権 (enable) モードの新しいルータ (基本のコンフィギュレーションが設定されている) にコピーします。

```
<#root>

Router#
copy tftp: running-config
Address or name of remote host []?
10.104.207.171
Source filename []?
backup_cfg_for_my_router
Destination filename [running-config]?
Accessing tftp://10.66.64.10/backup_cfg_for_my_router...
Loading backup_cfg_for_router from 10.104.207.171 (via FastEthernet0/0): !
[OK - 1030 bytes]

1030 bytes copied in 9.612 secs (107 bytes/sec)
CE_2#
```

FTP サーバを使用したコンフィギュレーションのバックアップと復元

この手順では、TFTP サーバの代わりに FTP サーバを使用できます。

1. Router> プロンプトで enable コマンドを実行し、パスワードの入力を求められたら必要なパスワードを入力します。

プロンプトが Router# に変わったら、ルータが特権モードになっています。

2. FTP のユーザ名とパスワードを設定します。

```
<#root>

CE_2#
configure terminal
CE_2(config)#
ip ftp username cisco
```

```
CE_2(config)#
ip ftp password cisco123
CE_2(config)#
end
CE_2#
```

3. コンフィギュレーションを FTP サーバにコピーします。

```
<#root>
CE_2#
copy running-config ftp:
Address or name of remote host []?
10.66.64.10
Destination filename [ce_2-config]?
backup_cfg_for_router
Writing backup_cfg_for_router !
1030 bytes copied in 3.341 secs (308 bytes/sec)
CE_2#
```

4. テキスト エディタを使用してコンフィギュレーション ファイルを開きます。AAAで始まる行を検索して削除します。

 注：この手順では、ルータからユーザーをロックアウトする可能性があるすべてのセキュリティコマンドが削除されます。

5. コンフィギュレーション ファイルを、FTP サーバから、特権 (enable) モードの新しいルータ (基本のコンフィギュレーションが設定されている) にコピーします。

```
<#root>
Router#
copy ftp: running-config
Address or name of remote host [10.66.64.10]?
Source filename [backup_cfg_for_router]?
Destination filename [running-config]?
Accessing ftp://10.66.64.10/backup_cfg_for_router...
Loading backup_cfg_for_router !
[OK - 1030/4096 bytes]
1030 bytes copied in 13.213 secs (78 bytes/sec)
CE_2#
```

ターミナル エミュレーション プログラムを使用した構成のバックアップと復元

設定のバックアップと復元に端末エミュレーションプログラムを使用できます。次に、Microsoft HyperTerminalエミュレーションソフトウェアを使用した手順を説明しますが、概念とこの例は、任意のターミナルエミュレーションソフトウェアで使用できます。

1. 別のルータからコンフィギュレーションをコピーする必要がある場合には、コンソールまたは Telnet を介してそのルータに接続します。
2. Router> プロンプトで enable コマンドを実行し、パスワードの入力を求められたら必要なパスワードを入力します。

プロンプトが Router# に変わったら、ルータが特権モードになっています。

3. ルータが応答を 1 画面ずつではなく応答全体を一度に返すようにするには、terminal length 0 コマンドを実行します。

これにより、ルータが 1 画面ずつ応答するときに、余分な --more-- プロンプトが生成されることなく、設定をキャプチャできます。

4. HyperTerminal のメニューで、[Transfer] > [Capture Text] の順に選択します。

[Capture Text] ウィンドウが表示されます。

5. このファイルに config.txt という名前を付けます。

6. [Start] をクリックし、[Capture Text] ウィンドウを閉じてキャプチャを開始します。

7. show running-config コマンドを実行し、ルータが応答を完了するまで待ちます。これにより、次のことがわかります。

```
Building configuration...
```

この後に設定が表示されます。

8. HyperTerminal のメニューで [Transfer] > [Capture Text] > [Stop] の順に選択し、スクリーンキャプチャを終了します。

9. 作成した config.txt ファイルを任意のテキストエディタ (メモ帳やワードパッドなど) で開きます。

10. AAAで始まる行を検索して削除します。



注：この手順では、ルータからユーザーをロックアウトする可能性があるすべてのセ

 キュリティコマンドが削除されます。

11. ファイルを保存します。
12. そのコンフィギュレーションが必要なルータに接続します。
13. config.txt ファイルを開きます。
14. config.txt ファイルの内容全体を選択して強調表示します。

これを行うには、マウスの左ボタンでコンテンツ全体を強調表示します。あるいは、メモ帳を使用している場合はメニューから [Edit] > [Select All] を選択できます。

15. 選択したテキストを Windows のクリップボードにコピーします。

テキストエディタのメニューから [Edit] > [Copy] を選択するか、CTRL キーと C キーを同時に押して、コピーを実行します。

16. [HyperTerminal] ウィンドウに切り替え、Router# プロンプトで configure terminal コマンドを実行します。[Enter] キーを押します。
17. [HyperTerminal] メニューの [Edit] > [Paste to Host] を使用して、設定ファイルをルータに貼り付けます。
18. 設定の貼り付けが完了すると、設定プロンプトが再び表示されます。copy running-config startup-config コマンドを実行して、設定をメモリに書き込みます。
19. exit コマンドを実行して Router# プロンプトに戻ります。

kron 方式を使用した設定の自動バックアップ

たとえば、毎週土曜日の 23:00 の時点で running-config を startup-config にコピーするようにルータを設定するには、次の手順を実行します。

1. kron ポリシー リストを作成します : 次に、スケジュールされた時刻にルータが実行するコマンドをリストしたスクリプトを示します。

```
<#root>
Router(config)#
kron policy-list SaveConfig
Router(config-kron-policy)#
cli write
Router(config-kron-policy)#
exit
```

- cli : Command Scheduler ポリシー リスト内に EXEC CLI コマンドを指定します。
- Policy-list : Command Scheduler オカレンスに関連するポリシー リストを指定します。

 注 : copy running-config startup-config ではなく write を使用する理由は、kron ではインタラクティブなプロンプトがサポートされていないのに、copy running-config startup-config コマンドではインタラクティブな操作が求められるためです。コマンドを作成する際には、そのことに留意しておくことが重要です。また、kron ではコンフィギュレーション コマンドがサポートされていないことにも注意してください。

2. kron オカレンスを作成します : これにより、ポリシーの実行時刻と実行頻度がルータに通知されます。

```
<#root>
Router(config)#
kron occurrence SaveConfigSchedule at 23:00 Sun recurring
Router(config-kron-occurrence)#
policy-list SaveConfig
```

- SaveConfigSchedule : オカレンスの名前を指定します。オカレンス名の長さは 1 ~ 31 文字です。occurrence-name が新規の場合、オカレンス構造が作成されます。occurrence-name が新規でない場合は、既存のオカレンスが編集されます。
- at : 指定した日時にオカレンスが実行されることを示します。
- recurring : 繰り返しオカレンスが実行されることを示します。

3. show コマンドを使用して kron 設定を検証します。

```
<#root>
Router#
show kron schedule

Kron Occurrence Schedule
SaveConfigSchedule

inactive

, can run again in 1 days 12:37:47 at 23:00 on Sun
```

- inactive : 現在、kron によってコマンドが実行されていないことを示します。

- Active : kron によって現在のコマンドが実行されていることを示します。

```
<#root>
```

```
Router#
```

```
show running-configuration
```

```
kron occurrence SaveConfigSchedule at 23:00 Sun recurring
policy-list SaveConfig
kron policy-list SaveConfig
cli write
```

TFTP サーバへのコンフィギュレーションのバックアップ

次の例では、毎週日曜日 23:00 に現在の設定が TFTP サーバー (10.1.1.1) に保存されます。

```
<#root>
```

```
Router(config)#
```

```
kron policy-list Backup
```

```
Router(config-kron-policy)#
```

```
cli show run | redirect
```

```
tftp://10.1.1.1/test.cfg
```

```
Router(config-kron-policy)#
```

```
exit
```

```
!
```

```
Router(config)#
```

```
kron occurrence Backup at 23:00 Sun recurring
```

```
Router(config-kron-occurrence)#
```

```
policy-list Backup
```

確認

show running-config コマンドを使用して、設定ファイルが宛先ルータにコピーされていることを確認します。

関連情報

- [シスコサポートおよびダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。